

埼玉県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 16 名

立候補者数 : 10 名



氏名 三宮 将一

都道府県士会 埼玉県

年齢 35

勤務先名称 赤心堂病院



氏名 古澤 浩生

都道府県士会 埼玉県

年齢 44

勤務先名称 リハビリテーション天草病院

協会・士会役員歴

2008年～2015年 (公社) 埼玉県理学療法士会 北部ブロック運営委員
2014年～2015年 (公社) 埼玉県理学療法士会 北部ブロック熊谷エリア長
2017年～ (公社) 埼玉県理学療法士会 職能局業務推進部長

協会・士会役員歴

平成23年6月～平成29年6月 埼玉県理学療法士会東部ブロック中央エリア長

立候補の趣旨

今回、初めて代議員へ立候補させて頂きました三宮(さんみや)将一です。
今まで埼玉県理学療法士会においてブロック運営、エリア長をさせて頂き、現在は職能局業務推進部長をさせて頂いております。
現在、日本の理学療法士の平均年齢は33歳とまだまだ若いこの組織においても様々な面において検討が必要な事も多くあると思います。
私は現在の職能局業務推進部長におきまして、「復職支援」に関する事を中心に関わらせて頂いております。
若手理学療法士と産休・育休を必要としている理学療法士の働きやすい環境について、お互いが協働出来る環境作りと、理学療法士一人一人の技術だけでなく、社会性・組織力を向上させる為には、一人一人の組織における意識が必要であると思います。
その為には関係組織と密に連携し、組織の更なる基盤の充実を図る事も必要であると感じ、今回の代議員選挙に立候補を致しました。
出来るだけ、現場の多くの意見を届けられる様に邁進したいと思います。
何卒、宜しくお願い致します。

立候補の趣旨

地域医療構想に伴う病棟の変遷や地域包括ケアシステムの構築により、我々理学療法士を取り巻く環境は大きく変化しています。
地域包括ケアシステムの中で理学療法士の存在価値を明確にしていくためにも、社会の中で日本理学療法士協会を強くしていかなければなりません。
昨年度まで埼玉県理学療法士会の東部ブロック内にて活動してきましたが、この度、代議員に立候補させて頂き、微力ながら日本理学療法士協会を支えていく所存でございます。
宜しくお願い致します。



氏名 細井 俊希

都道府県士会 埼玉県

年齢 49

勤務先名称 埼玉医科大学保健医療学部



氏名 赤坂 清和

都道府県士会 埼玉県

年齢 51

勤務先名称 埼玉医科大学保健医療学部

協会・士会役員歴

平成23年～29年：埼玉県理学療法士会教育局長
 平成29年～：埼玉県理学療法士会副会長
 平成27年～：日本予防理学療法学会運営幹事

協会・士会役員歴

平成13年 埼玉県理学療法士会理事（5期10年）
 平成17年 理学療法学編集委員（2年）
 平成18年 日本理学療法士会代議員（10年、現在に至る）
 平成25年 日本運動器理学療法学会運営幹事（現在に至る）
 平成25年 日本スポーツ理学療法学会運営幹事（現在に至る）
 平成28年 埼玉県理学療法士会オリパラ対策委員会委員
 （平成29年より埼玉県理学療法士会国際スポーツ競技対策委員会委員、現在に至る）
 平成28年 第3回日本運動器理学療法学会ブロック学術小集会 関東甲信越ブロック
 大会長
 平成28年 第3回日本運動器理学療法学会（金沢市）副大会長
 平成29年 理学療法ガイドライン・用語策定委員会委員長（現在に至る）

立候補の趣旨

現在、理学療法士を取り巻く環境の変化は大きく、また国民の皆様からの期待も大きいと思います。埼玉県理学療法士会は日本理学療法士協会と協力しつつその期待に応えていかなければなりません。そのためには、時代の流れに応じて柔軟に対応できる組織づくりが不可欠と考えます。会員の皆様方の声を聞きながら、理事会や総会で意見を述べ、より良い組織づくりに努めていく所存です。

立候補の趣旨

理学療法士の養成校の数は250を超え、大学院を開設している大学も増えてきました。しかしながら、理学療法の臨床と教育、そして関連する研究領域はまだまだ改善、発展の余地があると考えています。私はこれまで埼玉県理学療法士会理事や日本理学療法士協会の代議員を務めてまいりました。また、日本運動器理学療法学会および日本スポーツ理学療法学会の運営幹事を務めるとともに、2020年6月に完成予定となっている理学療法ガイドライン・用語策定委員会委員長など、これまでの経験を生かして、2018年からも引き続き日本理学療法士協会の代議員として微力ながら努力を続けていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



氏名 前園 徹

都道府県士会 埼玉県

年齢 62

勤務先名称 AMG地域健康推進研究所



氏名 矢野 秀典

都道府県士会 埼玉県

年齢 55

勤務先名称 目白大学保健医療学部

協会・士会役員歴

協会：S61～H20、23～現在、代議員。H19～21、
医療保険部長。H21～25、介護保険部長。
H24～現在、急性期ワーキンググループ委員。
士会：S60～63、H13～15、事務局長。H15～19、副会長。
H19～23、会長。
H20、埼玉県理学療法学会会長。
H24、関東甲信越ブロック理学療法学会会長。

立候補の趣旨

地域包括ケアシステムの整備が進む中、医療・介護なども大きく変化してきています。理学療法士を取り巻く環境も、超高齢化、少子化、そして働き手も高齢化、働く方々への健康管理も大切な領域になってきます。今までの役員経験を、これからの理学療法の発展のために活かして生きたい。

協会・士会役員歴

平成9年～12年 (社)神奈川県理学療法士会総務担当理事
平成15年～18年 宮城県理学療法士会理事(事務局長)
平成19年～24年 (社)日本理学療法士協会白書委員
平成21年～24年 (社)埼玉県理学療法士会新人教育部長
平成25年～現在 (公社)埼玉県理学療法士会理事(学術局長)

立候補の趣旨

私は、これまで神奈川県、宮城県、埼玉県と3つの士会で役員(理事)を経験し士会活動に携わってきました。現在は、埼玉県士会学術局長兼学会評議員長の役を賜り会員のみなさまの学術的側面のサポートを中心に士会活動を進めております。現在の理学療法士を取り巻く環境として、理学療法士数は増え続け、大量理学療法士の時代に突入しております。これからは、それぞれの会員からのニーズも多様化することが予測されます。それと同時に、我々、理学療法士が社会から求められる活動も多様化し、期待される役割もますます高まってくるものと思います。このような社会状況の中、今後の理学療法士の社会的活動に私の経験が少しでもお役に立てればと考え立候補いたしました。よろしくお願い致します。



氏名 南本 浩之

都道府県士会 埼玉県

年齢 51

勤務先名称 春日部厚生病院

協会・士会役員歴

平成29年～埼玉県理学療法士会 会長
平成28年～日本理学療法士協会 代議員
平成27年～埼玉県理学療法士会 理事

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補致しました南本浩之です。
平成29年度より埼玉県理学療法士会の会長という重責を担い、責務を実感する毎日を送っております。そのような中、国民の皆様への啓発、多職種との連携協働の大切さを改めて学んでおります。現在、理学療法士が置かれている状況は、大きく変化し、国や県、市町村からの期待感も大きくなっております。
その中、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割体制を構築していくこと、理学療法の質向上をはかることは、非常に重要な事と思っております。
国民の皆様には質の高い理学療法を身近に感じて頂く事により理学療法の必要性が向上し、そして我々の職域拡大、地位向上につながる事と思っております。
県士会会員の声を協会へ、協会と県士会運営の協働など体制充実に努めたいと思ひ立候補をさせて頂きました。
皆様何卒よろしくお願ひいたします。



氏名 原嶋 創

都道府県士会 埼玉県

年齢 50

勤務先名称 介護老人保健施設あすかHOUSE松伏

協会・士会役員歴

平成17年度～ 埼玉県理学療法士会東部ブロック運営委員
平成17年度～平成20年度 埼玉県理学療法士会広報局インターネット管理部部長
平成21年度～平成22年度 埼玉県理学療法士会新人教育プログラム検討委員会委員
平成23年度～平成28年度 埼玉県理学療法士会東部ブロック理事
平成24年度～平成26年度 第49回日本理学療法士協会全国学術研修大会
広報渉外局長

立候補の趣旨

この度の立候補の理由は三つある。一つは、日本理学療法士協会の方針や方向性を臨床現場で活躍する理学療法士に伝えることである。二つ目は、臨床場面での新たな取り組みや課題等を日本理学療法士協会や都道府県士会に伝えることである。三つ目は、協会・県士会と連盟との架け橋になることである。
職域としての直近の課題は、少子高齢化による医療費・介護費の効率化を図る政策の中での理学療法の位置づけである。
毎年約1万人の理学療法士が誕生する中で国民から必要とされる職種として生き残るためには、理学療法の質の担保、費用対効果を明確にすること、職能活動、政治活動といった民主主義のルールの中での取り組みを市町村レベル、県レベル、全国レベルで協働して行っていくことが重要と考えるのである。



氏名 清宮 清美

都道府県士会 埼玉県

年齢 58

勤務先名称 埼玉県総合リハビリテーションセンター



氏名 横山 浩康

都道府県士会 埼玉県

年齢 40

勤務先名称 熊谷総合病院

協会・士会役員歴

協会 平成14年 保健福祉部員
 平成18年 公益事業推進部員
 平成20年 改正公益法人制度改革特別委員会委員
 平成23年 組織部員
 平成25年 生涯学習業務執行委員会委員
 平成27年 女性会員対策特別委員会委員
 平成29年 選挙制度検討委員会

県士会 昭和62年～平成14年 (社)埼玉県理学療法士会 事業局 小児福祉部員
 平成11年～平成22年 (社)埼玉県理学療法士会理事
 平成23年～平成28年 (公社)埼玉県理学療法士会会長
 平成29年～ (公社)埼玉県理学療法士会監事

立候補の趣旨

私は、理学療法士として埼玉県に就職し、リハビリ病院・障害者施設・高齢者施設など、色々な所属を経験し、現在は相談業務に携わっています。その間に、医療保険の変遷をはじめ、介護保険制度施行、障害者自立支援法施行から障害者総合支援法への改正など、医療専門職を取り巻く周囲の制度改革が何回も行われ、理学療法士として行すべき領域は幅広いと感じました。また、理学療法士数は激増し女性の比率が高くなったとはいえ、日本理学療法士協会も都道府県理学療法士会も役職に就く方は男性が多いのが現状です。私は、男女の相違なく積極的に意見交換し活動ができることが望ましいと考え、埼玉県理学療法士会会長として活動してきました。今年度は監事として士会に携わっています。第49回日本理学療法士協会全国学術研修大会大会長の経験は、チームで取り組むことの大切さを実感し、大変有意義でした。この度は代議員として、埼玉県での役員活動と、少しでも協会のお手伝いの経験を基に自分の所属する団体の在り方や今後の活動について見つけ直し、多くの会員と関わりながら活動して行きたいと考え、代議員に立候補いたします。

協会・士会役員歴

平成24年度～ (公社)埼玉県理学療法士会北部ブロック運営委員
 平成25年～26年度 埼玉県理学療法学会評議員
 平成26年度 (公社)埼玉県理学療法士会北部ブロック熊谷エリア長代行
 平成27年～28年度 (公社)埼玉県理学療法士会北部ブロック理事
 平成28年度～ 協会指定管理者研修世話人(埼玉県:初級・急性期)
 平成29年度～ (公社)埼玉県理学療法士会北部ブロック熊谷エリア長
 平成31年度(予定) 第28回埼玉県理学療法学会会長

立候補の趣旨

私は、昨年まで埼玉県理学療法士会北部ブロック理事を務めておりました。埼玉県にて会員数施設数とも他ブロックに比較すると少数ながら、そのつながりを大切に活動してきたブロックに助けられ、何とか任期を終えることができました。これも先人たちが築いた他ならない風土によるものと感じております。そんな北部ブロックや埼玉県理学療法士会に恩返しすべく、今回の立候補を決意した次第です。

社会を見渡してみると、少子高齢社会の諸問題として、各産業や職域にて深刻な人手不足となっています。この問題に対しては、国民一人一人がいつまでも元気でやりがいのある生活を送ることが改善の一つであることが伺えます。本会は若い団体として、その期待は大きく、一人一人の会員の成長や組織力の強化、病院施設での部門管理者のスキルアップなど多くの課題改善や、社会に力強く立脚する姿勢が必要と考え、立ち向かう所存であります。